



東風

〇月〇日

『明るく伸びる子』

〇考える子 〇助け合う子 〇やりぬく子
〇じょうぶな子

【重点目標】

なりたい自分に向かって、しなやかな心でやりぬく子

令和6年 1月18日発行

《令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について》

令和5年4月18日（火）に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた「全国学力学習状況調査」ですが、小学校では、国語・算数の2科目での実施となりました。

今年度の本校の平均正答率を全道・全国と比較すると、国語・算数ともに全道・全国平均よりも低い結果となりました。教科の調査の他、児童の生活や学習の様子、自分自身のことについて答える「児童質問紙」についても実施しました。

以下に、今年度の岩内東小学校における調査結果の概要とともに、結果の考察および今後の指導の重点などについてお伝えいたします。

なお、4月18日当日に調査を受けた児童は47名となっており、欠席した児童の分は含まない集計結果をもとにした考察となっております。

《国語の結果》

【全道・全国を上回った主な設問】

- 〇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる
- 〇情報と情報との関係付の仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

【全道・全国を下回った主な設問】

- ▲漢字を文の中で正しく使うことができる（「いがい」「きかん」）
- ▲原因と結果など情報と情報との関係について理解している
- ▲日常よく使われる敬語を理解している

【分析と今後の取組】

全体の傾向から、漢字（同音異義語）や敬語、言葉・文の組み立てなどの「基礎基本の定着に課題が見られる」ということが考えられます。また、条件を満たしたり、字数制限を守って書いたりする記述問題への対応力、理解力にも課題が見られました。

今後は、音読や視写など「日常的に文を読む・書く」活動を継続するとともに、「友達の考えと比べながら説明する」「文章と資料を関連させながら発表する」など、基礎基本を定着させ、その知識を活用した言語活動の充実を図ります。さらに、条件付きの課題を授業の中で取り組むことで、問題に対する抵抗感をなくしていきます。

《算数の結果》

【全道・全国を上回った主な設問】

- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる
- 台形の意味や性質について理解している
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる
- $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる
- 「以上」の意味を理解し、示された数から必要な数を読み取ることができる

【全道・全国を下回った主な設問】

- ▲ 正三角形の意味や性質について理解している
- ▲ 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる
- ▲ 百分率で表された割合について理解している

【分析と今後の取組】

算数は国語よりも全道・全国との差がない結果となり、設問によっては正答率が上回ったものも多く見られました。ただし、国語同様、「基礎基本の定着に課題が見られ」ます。

三角形や割合などの確実な習得を目指し、授業の中に定期的なふり返りを位置づけます。また、正解に至る道筋を自分の言葉や式や図を使って表していく力をつけていくために、課題解決の部分を重視し、低学年のうちから取り組んでいきます。

《児童質問紙から分かる傾向》

- 質問紙の解答全般の傾向として、本校児童の回答では「当てはまる」が少なく、「どちらかといえば」を選んでいる割合が高く、自信のなさがうかがえます。
- 生活習慣の質問全体で、全道平均よりも低い結果となりました。
- 友達関係が良好であることや、自尊感情、自己肯定感といった部分では、おおむね全道平均並みとなったが、対先生、対大人の部分で低い結果となりました。担任はもちろん、多数の教職員の声掛けや励ましなど、様々な人が様々な形で一人一人のよさを認めていきます。
- 1時間未満の勉強時間の児童の割合が全道平均よりもかなり高く出ていることは課題です。学校評価でも家庭学習の部分は課題として表れているため、今後は、家庭学習の内容や取り組み方の状況を把握し、個に応じた指導を継続していきます。
- ICT機器関連の質問に課題がある結果となりました。今後も学校全体の取組として、ICT活用を推し進め、今後の授業改善に生かしていきます。
- 「算数が好き」の項目は、「当てはまる」の割合が全道と比較してもかなり高い結果となりました。国語・算数が「将来大切」「よくわかる」の項目は80%を超えていて、意識は高いと思われるため、家庭と学校とが「生活リズムの安定」と「学校生活の充実」の両輪で子どもたちを支え、やる気を伸ばしていくことが、本校にとっての課題であると思われます。今後とも、子どもたちにとって望ましい生活環境作りにご協力をお願いいたします。